

富岡町議会全員協議会日程

日時：平成28年9月14日

時間：9月定例会終了後

富岡町役場 桑野分室

開 議 午後 2時25分

出席議員（14名）

議 長	塚 野 芳 美 君	1 番	渡 辺 英 博 君
2 番	高 野 匠 美 君	3 番	渡 辺 高 一 君
4 番	堀 本 典 明 君	5 番	早 川 恒 久 君
6 番	遠 藤 一 善 君	7 番	安 藤 正 純 君
8 番	宇佐神 幸 一 君	9 番	山 本 育 男 君
10 番	高 野 泰 君	11 番	黒 澤 英 男 君
12 番	高 橋 実 君	13 番	渡 辺 三 男 君

欠席議員（なし）

説明のための出席者

町 長	宮 本 皓 一 君
副 町 長	齊 藤 紀 明 君
副 町 長	滝 沢 一 美 君
教 育 長	石 井 賢 一 君
参事兼 会計管理	佐 藤 臣 克 君
参事兼 総務課長	伏 見 克 彦 君
企 画 課 長	林 紀 夫 君
税 務 課 長	三 瓶 雅 弘 君
参事兼 健康福祉課長	猪 狩 隆 君
住 民 課 長	植 杉 昭 弘 君
参事兼 安全対策課長	渡 辺 弘 道 君

参 事 兼 産 業 振 興 課 長	菅 野 利 行 君
復興推進課長	深 谷 高 俊 君
復 旧 課 長	三 瓶 清 一 君
教育総務課長	石 井 和 弘 君
いわき支所長	小 林 元 一 君
拠点整備課長	竹 原 信 也 君
統括出張所長	三 瓶 直 人 君
参 事 兼 生 活 支 援 課 長	林 志 信 君
原子力事故対策 係 長	遠 藤 淳 君
代表監査委員	坂 本 和 久 君

職務のための出席者

議 会 事 務 局 事 務 局 長	志 賀 智 秀
議 会 事 務 局 庶 務 係 長	大 和 田 豊 一
議 会 事 務 局 庶 務 係 主 任	藤 田 志 穂

説明のため出席した者

【福島第二原子力発電所 核物質防護規定遵守義務違反について】

福島第二原子力 発電所副所長	原 子 昭 洋 君
福島第二原子力 発電所広報部 リスクコミュニ ケーター	大 越 吉 弥 君
福島復興本部 福島復興推進 室副室長	佐 藤 英 俊 君

付議事件

1. 福島第二原子力発電所における「核物質防護規定遵守義務違反」について
2. その他

開 会 （午後 2 時 2 5 分）

○議長（塚野芳美君） ただいまより富岡町議会全員協議会を開会いたします。

ただいまの出席議員は14名であります。説明のための出席者は、お手元に配付した名簿のとおりでございます。職務のための出席者は、町長、副町長、教育長、そのほか関係各位及び議会事務局長、庶務係長、庶務係主任であります。

付議事件に入る前に、町長より全員協議会招集内容の説明とご挨拶をいただきたいと思います。

町長。

○町長（宮本皓一君） 議員の皆様には9月定例議会に引き続き全員協議会にご出席いただき、まことにありがとうございます。

急遽開催させていただきました本日の全員協議会の案件は、過日の報道にもありました東京電力ホールディングス株式会社、福島第二原子力発電所における核物質防護規定遵守義務違反について同社から説明を受けるものです。今後帰町を控える当町において町民の安心、安全のため非常に重要な案件でありますので、議員各位と情報の共有を図ってまいりたいと考えております。議員の皆様のご貴重な意見をお願い申し上げます。

○議長（塚野芳美君） それでは、付議事件に入りますが、説明に入る前に福島第二原子力発電所副所長、原子様からご挨拶をいただき、あと2名の方から簡単な自己紹介をしていただき説明に入っていただきたいと思います。原子副所長よろしく願いいたします。

原子さん。

○福島第二原子力発電所副所長（原子昭洋君） 東京電力福島第二原子力発電所、原子昭洋と申します。本日は、ご多忙のところこのような私どもの説明の機会をいただきまして本当にありがとうございます。

さて、昨年の国によります核物質防護検査におきまして、警備上の監視業務の一部に不適切な行いがあったということが確認されまして、一昨日原子力規制委員会より、核物質防護規定の遵守義務違反ということで嚴重注意をされました。さらには、昨日でございますけれども、福島県殿より本件に関しまして、再発防止の徹底と核物質防護措置の徹底、それから安全第一とする企業風土の早急な確立というこの2点につきまして申し入れをいただきました。当社におきましては、この嚴重注意、それから申し入れにつきまして厳粛に受けとめておりまして、既に一部再発防止対策は講じておりますけれども、二度とこのような事態が起こらないように、この再発防止対策を継続的に着実に実施していくつもりでおります。富岡町の皆様を初め福島県の皆様、そして広く社会の皆様の大変なご心配とご迷惑をおかけしますことを改めておわび申し上げます。大変申しわけございません。後ほど事案の概要につきましては、改めてきょう出席しています大越のほうからご説明をさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

○福島第二原子力発電所広報部リスクコミュニケーター（大越吉弥君） 事案の関係につきましてご

説明をさせていただきます福島第二原子力発電所広報部の大越でございます。よろしくお願いいたしますします。

○福島復興本社福島本部復興推進室副室長（佐藤英俊君） 福島復興本社復興推進室の副室長をしております佐藤と申します。よろしくお願いいたしますします。

○議長（塚野芳美君） それでは、付議事件 1、福島第二原子力発電所における「核物質防護規定遵守義務違反」についての説明を求めます。

大越さん。説明は、着座のままで結構です。

○福島第二原子力発電所広報部リスクコミュニケーター（大越吉弥君） 着座のままご説明させていただきますことをお許しいただきたいと思います。

今回の事案につきまして、大変皆様にご迷惑、ご心配をおかけしておりますことを改めておわび申し上げます。申しわけございません。9月の12日に原子力規制委員会のほうから福島第二原子力発電所の核物質防護規定の遵守にかかわる遵守義務違反ということで嚴重注意文書を受けてございます。この事案に関しましてお手元に配付をさせていただきました資料に沿いましてご説明を申し上げます。

この嚴重注意を受けるということになった事案につきましては、発電所の核物質防護規定にかかわるものでございますけれども、この核物質防護規定と申しますのは、核物質や原子炉施設の防護にかかわる管理方法などを定めているものであります。事案の概要のところにも記載をしてございますように、この核物質防護規定のところでは2015年の10月7日に、原子力規制庁によります核物質防護検査というものが実施をされてございます。この検査におきまして警備上の監視業務の一部が適切に行われていなかったことが確認されたということでございますけれども、これは敷地境界などで監視業務を行っておりますが、この監視業務は侵入検知器や監視機能などを組み合わせて実施をしてございますけれども、これらの周辺環境の影響によりまして侵入検知器におきます不要警報が多発をしてございました。このため一時的に警報表示機能を停止をしていたというものでございます。この際には、複数の装置を組み合わせて行っていて、全部を停止するというものではなかったわけですが、私どもとしてはほかの生きている設備を使って代替をしているという認識でございましたけれども、この国の検査におきまして、その代替の措置が十分ではないということをご指摘をされたわけでございます。その後、これらの事案につきまして国の調査がありまして、9月12日の原子力規制委員会におきまして先ほど申し上げたような違反の判断が出されたということでございます。

これらの事象に関しまして私どもの調査の中では、監視業務にかかわります抜き取りの調査をこの検査が行われた直近の2015年の9月、10月と合計4回行っておりまして、この4回におきましても今お話ししたような一時的に警報表示機能を停止するというようなことがあったということを確認してございます。また、警備業務を担当する者の聞き取り調査なども含めまして、同様の事案はこの9月調査の以前にもあったというふうに確認をしてございます。

これらの事案が発生をしました原因については、資料に記載のとおりでございますけれども、私どもの核物質防護の管理者を含めて核物質防護を担当する者が関係する法令の理解が不足していたことや、核セキュリティに関する意識の不足があったこと、また本社や上位職者を含めた組織的な管理体制が不備であったことということが背景にあったものと考えてございます。これらの調査やあるいは規制庁様の指摘を踏まえまして、同様の事案が発生することがないような再発防止対策を実施をしてございます。

再発防止対策の1つ目としましては、法令の理解や核セキュリティに対する意識の向上ということでございまして、核物質防護管理者や核物質防護担当者に対しまして関連する法令の教育指導を徹底をしまして、核セキュリティに関する意識の向上を図ってまいります。

2つ目としまして、核物質防護業務にかかわります組織的なチェック機能の強化ということでございます。これは、社内の核物質防護にかかわる関係する部署で、相互に業務の監査、実施状況の監査などを行っておりますが、これの基盤をもう少し強化をいたしまして、お互いのいいところは素早く水平展開をするなどの一層の改善に努めてまいります。

また、3つ目として監視業務にかかわります環境整備の強化ということでございますが、これは周辺的环境によりまして一時的に機能を停止をしてしまったということがございましたので、そういったことがないように周辺的环境の整備を徹底をしまして、確実な侵入検知や監視機能の確保を図ってまいります。このような対策をしっかりと行ってまいりまして、同様の事案が発生することがないようにしっかりと努めてまいりたいというふうに考えておりますので、ご理解のほどをよろしくお願いいたします。

ご説明のほうは以上でございます。

○議長（塚野芳美君） 説明が終わりましたので、これより質疑を許します。質疑ございませんか。

7番、安藤正純君。

○7番（安藤正純君） 今大越さんからの説明で意識不足とか教育不足とか再発防止に対する考え方なんかを述べられたけれども、意識とか教育とかいうレベルの問題ではないよ。当町では、通報連絡体制というのをやっているよね。これ発覚しているのが去年だよ、1年前。スイッチが入っていないというのは、わかっているだけでも4回出てきているわけだ。こういう核物質防護の重要な規定違反を富岡町に通報していないというのはどういうことなのよ。それと誤ってスイッチを切ったとか過失だったとか、そういうことではないよ、これ。意識的に故意的に切っているのだよ、間違ったではないから。あと、結局所長は知らないとか上層部は知らなかったとか、現場のトカゲのしっぽ切りみたいな理由並べているけれども、原子力規制庁が来てチェックしているときに所長は同席しないの。あなた方の管理体制どうなっているの。富岡町で例えば課長連中とか係長クラスの人が大きなこういう問題やったときにはちゃんと町長に報告するよ。あなた方の会社どうなっているの。こういう言いわけたらたんなことをマスコミ発表して組織犯罪ではない、一部の警備担当のやったことだみたいな書

き方しているけれども、これとんでもないよ。ましてつい数カ月前でしょう、メルトダウンという言葉は使うなと社長命令でやったと、そのとき会社の体質をかえるとか立派なこといっぱい並べていたのだ。そのときにもこれもうやっちゃっているのだよ、こういうこと。あなた方の会社どうなっているのだ、ちょっと疑問ある。まず、こういう大きなことをやるに当たって原子力規制庁が検査に来ると、そういったときにこういう問題が発生して所長に報告しない会社なの、その辺副所長答えてください。

○議長（塚野芳美君） 原子さん。

○福島第二原子力発電所副所長（原子昭洋君） ただいまいただきました件でございますけれども、今回の事案につきまして昨年の検査でそのようなことが発覚したということで、そのときになぜ通報なり公表なりしなかったのかということにつきましては、再発防止対策も含めて、それから確認、調査も含めてこのような形でそのときから調べた、もしくはあるいは再発防止対策を講じてきたということがございまして、そのとき公表なり通報というところに考えが至らなかったということは真に反省をしております。そして、この事案が所長まで上がっていなかったと、上層部まで上がっていなかった、途中の核物質防護管理者のところにとまっていたということはまさにご指摘のとおりで、会社として組織として風通しのよい職場、コミュニケーションがきちりと改善され、活用されなかったということも今回の大きな反省点の一つでございます。原子力の改革ということは、私ども不祥事以降ずっと続けてきておりましたけれども、結果的にはこのようなことでまだまだ浸透していない、風土として成り立っていないということがこれで一つ露呈をしたわけでございまして、これからのことでございますけれども、このようなことが二度とないようにしっかりと組織体制、それから意識の改革等を進めていくということで、また皆様方のご理解をいただくしかないというふうに思っております。大変申しわけございません。

○議長（塚野芳美君） 7番、安藤正純君。

○7番（安藤正純君） 私、平成14年のトラブル隠しからずっと東京電力とお付き合いさせてもらっている、いろんな会議で。毎回同じこと聞いているの。意識改革とか風通しのいいとか、本当に隠蔽体質全然直っていないよ。極端な話言ったら頭から、トップから末端の職員、ごめんなさい、ちょっと言い過ぎだけれども、もう入れかわらなければならないぐらいの会社ではないかなと思ってしまいます。先ほど私質問したように、これは間違いでスイッチを切ったのではなくて、意識的に故意的にスイッチを切っていることだから、これは私は防護規定違反というよりもちょっと犯罪に近いのかなというふうに思っています。まして間もなく富岡町に戻ろうという時期なのです。そういったときにデブリ燃料とか枕元にああいう問題が40年もかかるという問題抱えているわけだから、そういったときに石棺の問題、メルトダウンの問題、こうして核物質防護の問題、次から次にそういう問題提起してくれているの、東京電力は。それで意識改革しますから、そんな問題ではないよ、もう。富岡町に通報がおくれたのは、通報する気があったのかなかったのか、その辺も含めて答えてほしい。

あと、結局意識とか教育とかの問題ではなくて、第二の所長から現場の手続とらなければならないから面倒くさいから、それはこのままでいいのだといった課長まで処分をどういうふうにするのかその辺も含めて答弁してください。

○議長（塚野芳美君） 原子さん、答弁は起立してお答えください。

原子さん。

○福島第二原子力発電所副所長（原子昭洋君） 当時の通報なり公表というところにつきましては、真摯に反省をしているところでございます。それがそのタイミングでするものかどうかということにつきましては、ちょっと私も今答えを持ち合わせていませんので、そこはまた後ほど確認をさせていただきたいと思います。

それから、現場の一部のところにこの情報がとどまって、所長まで上がっていなかったということに関しては先ほど申し上げたとおり、意識の低下、核セキュリティの理解不足、それから法令の遵守の不足ということもございます。先ほど大越からご説明させていただきましたとおり、この侵入検知機能の警報装置を切ったとしても複数の代替措置があったということもあって、そこは少し安易に考えてスイッチを切っていたということも背景としてございますが、本来であればあってはならないこと、それからもしそういうことをするのであれば、そういった代替機能の確保の手続等、そういった業務の手続等を進めて、それをきちんと明確化して、それを例えば国に認めてもらう措置として、そういうことが手続ができていれば、このような問題が起きなかったということも真摯に反省をしてございます。議員のおっしゃるとおりこれから富岡町も皆様が春に向けて帰町を考えられると、帰町に向けて動いていらっしゃるということは、私ども重々承知してございますし、いろんな問題が過去から連続して、そのたびにこうやっておわびを申し上げているということも重々承知してございますけれども、こういったことは末端まできちんと組織として機能しなかったということがまたあったということは、また大変に反省しなければいけませんし、これからまた繰り返しになりますけれども、このようなことがなくなるようにということで、所長以下徹底してこの問題には取り組んでいきたいというふうに思っております。

○議長（塚野芳美君） 7番、安藤正純君。

○7番（安藤正純君） 副所長、私さっきの質問の中に富岡町とは通報連絡体制というのがあるので。先ほどの大越さんの説明では、本日原子力規制委員会から防護規定の遵守に係る違反があったので、嚴重注意を文書で受けたという説明あったのです。規定違反を本日認めたみたいなもので、本日がついたみたいな感じの説明なのだ。原子力規制庁から言われたから説明に上がりましたではなくて、もう1年も前から指摘を受けていたの、本日わかったのではないのだよ。その辺が東京電力の体質は、責任をよそに振るの、振って私らは正しいのだみたいな言い方ではなくて、1年も前から悪いことをしていましたと何で言わないのよ。本日原子力規制庁から言われて初めて気がつきましたではないのよ。その辺がちょっと考え方甘い。私らも末端の職員が線量の高いところで、1Fとか2F

で頑張っているのわかっているの。東京電力に言いたいのは、あなた方幹部がぬるいの、本当にぬるいの。二、三年でどうせ転勤して行ってしまうのだから、そんな考えで仕事しているのではないのと言いたくなる。だから、これ警備担当の課長だけの責任ではないよ。原子力規制庁が来たときに同行して所長みずからどんな問題があるか、そういうことをやっていないから所長は知らなかったなんて、何か所長をかばうみたいな発表になってしまっているのだ。このことを知らないことが所長の犯罪なのだ。そんなふうに考えないのですか。これは、本当に所長も処分対象だよ、こんなのは。そういう考えがあるかどうかというふうに2番目の質問でもやっているのだから、きれいな答弁ばかりしないで、私の質問に対してちゃんと答えてください。

○議長（塚野芳美君） 原子さん。

○福島第二原子力発電所副所長（原子昭洋君） まさにこの問題が所長まで上がっていなかったということ、それから検査のときに所長が同行すべきかどうかというのはちょっと私も今答え持ち合わせてごさいませんが、組織として各部署がやる仕事については最終的には所長が、幹部が責任を持つということが常であると思います。ただ、今回の事案に関しては、そこの情報なり共有なりがきちんとしていていなかったということが今回もその原因の一つとして、私どもとしては分析をしてごさいます。

それから、処分ということについては、これからどうなるかまたいろいろあるかもしれませんが、現状ではこの核物質防護管理者につきましては、本店の原子力防護管理部長から嚴重注意ということで注意がなされているところでごさいますが、これが福島第二の所長を含めた経営幹部にどういう処置が下されるかということはちょっと私今答え持ち合わせていませんので、確認ができればまた皆様にお話をさせていただきます。

○議長（塚野芳美君） 7番、安藤正純君。

○7番（安藤正純君） わかりました。会社内部のことは余り突っ込んで聞きませんが、富岡町との通報連絡体制、こういったものは軽んじているのか、この1年間で4回も原子力規制庁から注意されていたにもかかわらず、富岡町に何の連絡もしていなかった。このことに対しての説明を求めます。

○議長（塚野芳美君） 原子さん。

○福島第二原子力発電所副所長（原子昭洋君） 通報連絡の協定に基づくことについては、もちろん承知をしてごさいますが、私の知識で何がこの件について通報連絡が必要だったかどうかということについては、今詳細ちょっとわかりかねますので、そこはまたご確認してお話しさせてもらいたと思いますけれども、4回というのは調査の結果、少なくとも4回ということで判明したということでございまして、核物質防護検査を受けて以降そういった確認を進めてきたと、それからここに掲げております再発防止対策を講じてきたということで、最終的には一昨日原子力規制委員会より嚴重注意ということで文書が出されたということでございします。お答えになっていなくて申しわけござ

いません。

○議長（塚野芳美君） そのほかございますか。

8 番、宇佐神幸一君。

○8 番（宇佐神幸一君） 1 点お聞きしたいのですが、先ほど再三出ていますけれども、富岡町は原子力発電所について町も議会も、議会としては特別委員会をつくり、町と協議しながら通報連絡のことを監視しているのですが、今回先ほど通報連絡をちゃんとした形で今ご発言いただかなかったけれども、実際に今回このことであっても今まで議会の前に、必ず定例会の前に通報連絡、処理簿に沿って町からご説明をいただいて議会で議員の方たちが納得していた状況下において、実際的にそういうのははっきり言えば議会としてはそれが正しいものだと、報告は正しいのだという形で私も委員会を進めている側としては、これからの委員会がはっきり言いますと報告があっても全部疑うような形になってしまう。報告が正しいのかという形から入ってしまう。それに対して今の議会に対しての信用度、町に対しての信用度がなくなったことに対してこれからどう考えていくのか、またやっていくのかお聞きしたいのですが。

○議長（塚野芳美君） 大越さん。

○福島第二原子力発電所広報部リスクコミュニケーター（大越吉弥君） 申しわけありません。通報連絡の細かいところがここにはないのですけれども、今の協定の中では項目がいろいろ決まっておりますので、その項目の中には多分こういう個別の事象は書いていないというふうに認識をしてございます。ただ、その他の部分がございますので、その他のいろいろ通報すべきものというところについては、その他の部分のところで読むということも可能だというふうに考えてございます。今回は、通報はできておりませんけれども、今後そういったところの解釈を少し考えさせていただきながら、きちんと通報すべきものをしっかりと定めて、対応してまいりたいというふうに考えてございます。

以上でございます。

○議長（塚野芳美君） 8 番、宇佐神幸一君。

○8 番（宇佐神幸一君） 発電所に起こるもの全てのものについては、たしか通報されるという形で今までやってきたと思うのですが、今回のことは通報しませんでした。こういう通報するものは別ですということを分けている自体もおかしいし、あとこの中にある組織的な管理体制が不備だったと、今まで基本的に組織的に発電所つくって通報されていると思うのですが、不備ということで一つで片づけてしまうということは正しいのか、むしろこれは私たちが軽視をしていると思うのですが、どう思いますか。

○議長（塚野芳美君） 大越さん。

○福島第二原子力発電所広報部リスクコミュニケーター（大越吉弥君） 今回通報まで至らなかった点については、重ねておわび申し上げます。決してそういう軽く見ているわけではございませんし、私どもとして通報をしっかりやっていくということは、これは使命でございますので、しっかりやら

せていただくのは当然であるというふうに考えております。ただ、解釈というか、これをどうしましょうというところまでの議論を今後しっかりと深めていって、やはりこういうものについては通報をするというところをお互いに確認をさせていただきながら、対応をさせていただければというふうに思っています。現在は、結んでおります通報連絡の協定の中でそのものはしっかりできているというふうに思っておりますけれども、今回の事案についてできなかったことについてはおわびを申し上げます。

○議長（塚野芳美君） 8番、宇佐神幸一君。

○8番（宇佐神幸一君） 今の回答にも出ていましたが、私たちは原子力発電所に対してはすごく敏感に考えております。ただ、発電所側としては、これはいい、これは出さなくていい、これは出すのだということのようなニュアンス的な話としか今とれなかったのです。だから、役場としては担当課もあってあらゆるものを知らなければいけない。その前にそちらのほうでとめてしまうと情報が流れてこないというのが現状だと思うので、これからについてそこのところをもう少し考えていっていただきたいと思います。

○議長（塚野芳美君） 大越さん。

○福島第二原子力発電所広報部リスクコミュニケーター（大越吉弥君） 役場さんともご相談をさせていただきながら、どういったものが我々に必要になるかというところを含めまして、今答えは持ち合わせておりませんが、今後しっかりお話を伺いながら忠実に努めてまいりたいというふうに考えてございます。

○議長（塚野芳美君） そのほかございませんか。

6番、遠藤一善君。

○6番（遠藤一善君） 今の説明のときにも今のほかの議員の回答のときにも代替をしていた認識だったという話は何回も出てきているのですけれども、代替をしていた認識だったということは、当然今回の原因は周辺環境、新聞によれば草とかそういうもの、それから侵入検知、動物だと思いますが、この震災がなくてもそういう状況は原子力発電所が動いてからあそこの地域のことを考えれば当然草も生えているし、動物もいたはずで。ということは、これ今始まったことではなくて、もうつくったときからずっとこういう代替をしたという認識でやってきたという認識でよろしいですか。

○議長（塚野芳美君） 大越さん。

○福島第二原子力発電所広報部リスクコミュニケーター（大越吉弥君） 今回不要な警報が発生しました検知器に関しましては、震災以降に新たに導入をしているものでございます。議員のご質問に十分に答えられないところもあって申しわけございませんけれども、そういう検知器を設置をした以降にこのような不備な取り扱いをしていたということでございます。

○議長（塚野芳美君） 6番、遠藤一善君。

○6番（遠藤一善君） 何個も何個も聞く気はないので、ちょっともう一回聞きます。侵入検知器は、

そうすると以前はついていなかったという認識でよろしいのですか。

○議長（塚野芳美君） 大越さん。

○福島第二原子力発電所広報部リスクコミュニケーター（大越吉弥君） 以前からついてございました。新たなものに取りかえたということでございます。

○議長（塚野芳美君） 6番、遠藤一善君。

○6番（遠藤一善君） 再度ついていたものを新たに置きかえようが何しようが、そういうものがついていていたものを切っても代替として認識していたということは、当然以前から安易にスイッチを切っていたんだろうと私のほうは理解します。そういうことであれば、根本的な核をどうのこうのというよりも、原子力の核物質の防護そのものを軽視しているような会社が核物質を持っていること自体がもうアウトだと思います。ということは、もう少なくとも第二原子力発電所の核物質は全て今の東京電力さんがきちっと防護ができないということです。それはもう既にそういうものはきちっと持ち出すなり、きちっと保管するなり、あそこに置いておくべきではないというふうに思うのですが、その辺に関しては自分たちの会社がこれに資格があるというふうにお思いですか。

○議長（塚野芳美君） 原子さん。

○福島第二原子力発電所副所長（原子昭洋君） 今いただいたご意見につきましては、私ども大変厳粛に受けとめなければいけないと思っています。今ご説明申し上げましたように、新しい置きかえた侵入検知器以降、このような不備が確認されたということは認識してございますけれども、代替の措置によりまして人の侵入等の形跡はそれで確認できるというような甘えなりがあったということは調査の結果わかっておりまして、そこは大変大いに反省をしているところでございます。こういったことがあったという我々事業者が今後核燃料を取り扱う事業者として足り得るかということにつきましては、議員のおっしゃるとおり我々は大いに真摯に反省をして、今後このようなことがないようにきちんとして管理できる組織並びに運営、そして所員一丸となった意識改革ということを進めていくほかしかございません。何とぞこのような答弁でお許しいただければと思います。

○議長（塚野芳美君） そのほかございませんか。

13番、渡辺三男君。

○13番（渡辺三男君） 体質やいろいろ出ましたが、まさに去年の10月7日の事象が今出てくるといのが私も不思議でしょうがないのです。先ほど原子力発電所の特別委員会の委員長が年に4回そういう報告、事例の説明を受けているということは定例議会前に委員会やるのです。そこで必ず3カ月、3カ月の事例の報告を受けているのです。そういうところにも一切報告しないで隠しに隠して今出してきたということは非常に情けない状況だと私思っています。この間復興本社の石崎代表初め四、五人来ていただいていろんな説明受けた中でも、私も来年の4月解除されるであろう時期を迎えているのにそういう細かい事象を起こさないでくれと、町民が不安視しますよということを要望しました。まさにそんな問題ではないのです。隠しに隠して隠し通せなくなって出したという感じなのです。先

ほどこの事案の説明を受けましたが、この事案の説明の中だと自分たちは悪くないと言っているのと一緒になのです、これ。いろんな角度から見ていますので、要はセンサーのブザーのスイッチを切っても多分カメラとかそういうので見ていたのだと思います。見ていたとすれば、何回カメラにそういうブザー鳴らなくても例えば枯れ木がさわったとか、草がさわったとか、例えばタヌキが入ってきたとか、そういう事案何回確認しているのか、それ教えてください。

人間は、仕事しながら2カ所も3カ所も目で見ているわけにいかないから、目で見逃したときのためにブザーを鳴らしたりするようなシステムに2重、3重のシステムにしているのだと思うのです。せっかくそれまでやっているのに、あなたたちは故意にスイッチ切って簡単に謝って済む問題だと思っているのですか。ましてやこれだけ日本の原子力政策を揺るがすような問題を起こして、副所長以下2名が説明に来ればいいのか、謝りに来ればいいのか。本社の社長まで来なければならないような事例ではないのですか、これ。とことんやったらあなたら全部説明できるのですか、我々の質問に。そういうことでしょうか。だから、7番議員さん言われたように体質が全く変わっていない。あなたらあれだけの原発事故を起こして、起こした当座は職員が陰からみんな遠くへ逃げていったと、職員の家族。あなたらは、職員の家族には手厚くして町民は関係ないや、野たれ死にしろという気持ちでしょう。そうとしか我々とはとれないのです。今回の事案だってそうでしょう。万が一おかしな侵入者がいたら、見逃したらどうなるのですか、原発。あなたらは、それだけの重要なものを国から任せられているという責任感がないのです。だから、きょうだって副所長初め3人になってしまうのです。非常に情けない話です。きょうは、所長はどこに行ったのですか、あとほかの幹部はどこに行っているのですか。富岡町の議会には、その程度の説明で済むから行ってこいという話なのですか。どうなのですか教えてください。

○議長（塚野芳美君） 原子さん。

○福島第二原子力発電所副所長（原子昭洋君） 今お話を伺ったことについては、非常に私も真摯に受けとめております。経営幹部がなぜ説明に来ないのかということに関しては、スケジュールの調整等々ございまして、かつきょうは発電所を代表して私と大越で説明に上がった次第でございまして、絶対に軽視だとかそういうことはございません。質問に全部答えられるかどうかというのは、細かいところまではなかなか難しいかもしれませんが、きょうは私どもが代表してこのような形で説明をさせていただくことで参った次第でございまして。そこは、何とぞご理解いただければと思います。

それから、これまでこういった事例がどれぐらいあったのかということでございますけれども、確認できただけでも4回ということで……

○13番（渡辺三男君） いや、その事例ではなくて、スイッチ切っているときに例えば小動物が何回入ってきたと、瓦れきが何回さわってセンサーで感知したと、あなたら見ていたと言ったでしょう、別な方法で。

○福島第二原子力発電所副所長（原子昭洋君） 調査をしましたけれども、そこまで細かいところま

では確認ができなかったことは事実でございます。申しわけございません。

○議長（塚野芳美君） 13番、渡辺三男君。

○13番（渡辺三男君） あなたら答え持ってくるのに一番肝心なところ持ってこなければだめなのです。小動物が3回入った、人間も2人くらい入ったかもしれないとかと、そういう肝心な答え持ってこないと人も入った可能性もあるわけです。ただ、問題なかったからいいようなもの、そういうのが一番肝心なのです。あなたら冒頭の説明で言ったのです、ちゃんと。スイッチは切っていても別な監視方法もありますので、そっちで見えていますからということを行ったのです。見ていてわからないの、そういうことが肝心なことなのです。あとは、厳重注意と新聞に載っていましたよね。厳重注意って、普通であれば注意も厳重注意も大して変わらないのだ。多分ペナルティーあるかどうかかわからないのですが、恐らく幹部職員にまで注意が行くようなことはないと思うのです、罰せられること、所長が解任されるとか。そんなことないような厳重注意だと思うのです。だけど、立地町としてはそんな問題ではないのです。先ほども出たけれども、放射能物質は全て町内から持って行ってくださいくらいの厳重注意なのです、これ。あなたらには任せておけないということで、それがきょう副所長以下3名、十分能力あって何でも説明できる方だとは思っていますが、やっぱり役職の人がきちっと来て説明すべきところはきちっと説明しないと問題事は解決しないのです。それだけ安易に考えているということなのです。幹部の方の時間的に日程が合わなかった、合わなかったってあなたたちでしょう、申し入れてきたの。我々が来て説明してくださいと言ったのではないです。あなたらが申し入れてきたのでしょう。それに何で幹部連中の予定がつかないのですか、何でつく日に説明に来ないのですか、全て安易でしょう。どうなのですか。

○議長（塚野芳美君） 原子さん。

○福島第二原子力発電所副所長（原子昭洋君） 1つ目の動物等の侵入の形跡があったかどうかということにつきまして、少なくとも人の侵入の形跡はなかったことは確認をさせていただきます。

それから、きょうの私どもの説明の陣容ということで軽視をしているというご指摘を頂戴しましたがけれども、何度も言うようで恐縮ですけれども、決してそのような意図や他意はございません。ただそういったご意見をいただいたということは、私も社に戻って経営幹部のほうにお伝えしたいと思えますし、今後できるようなことがあれば改善をしまいたいというふうに思いますので、きょうはこれで私どもの説明でご容赦いただきたいと思います。

○議長（塚野芳美君） 13番、渡辺三男君。

○13番（渡辺三男君） 全てわかりました。ただ、今の答弁の中で小動物入ったのも何もわからなくて、人は入らなかったというのはどういうことなのですか。それだけ監視していなくて、少なくとも人は入らなかったというのはどういう監視体制で人は入らないという答弁できたのですか。

○議長（塚野芳美君） 大越さん。

○福島第二原子力発電所広報部リスクコミュニケーター（大越吉弥君） 監視装置の詳しいところは

ご容赦いただきますけれども、警報が出た際にはその部分を目視で確認をするなり、その場所に出向いてチェックをするということになっておりますけれども、そういうチェックを行った中で人が入ってきたというところについてはなかったということでございます。

○議長（塚野芳美君） 13番さんもう一度どうぞ。

13番さん。

○13番（渡辺三男君） 警報を鳴らないように切っておいて、カメラか何かで多分見ているのだと思うのです。何かがあれば今度人が駆けつけていってその辺見るのでしょうかけれども、その何かがあればというそれが見つけられないでしょう。それなのに人は入った入らないというのは、私は立証できないと思うのですが、その辺不思議なのです。警報器を切っておいても見ていなくても人は入らなかったよとわかるのであれば、これほど安全なことないですけれども、それもわからないと思うのです、切っている以上は。それは、当然カメラとか警報器とかセンサーで反応して警報が鳴った、カメラに何か映ったと、暗闇の中に小動物か何か映ったと、これ人だったら困るから行ってみようといって行って形跡を探したら、人の足跡とかそういうのはなかったから人ではなかった。では、タヌキかキツネかそういう判断になるのだと思うのですけれども、それを怠っていたわけでしょう、あなたらは。少なくとも人入らなかったって、どこで証明できるのですか、そんないいかげんな答弁して。

○議長（塚野芳美君） 大越さん。

○福島第二原子力発電所広報部リスクコミュニケーター（大越吉弥君） 済みません、答弁足らずで申しわけございません。

先ほども申し上げましたように、今回の侵入検知機という、一つの侵入検知機については警報機能を停止したということでございます。これ以外にも警報装置を持った検知機や監視設備がございまして、そちらの監視を継続しておりますし、また警報も鳴りますので、代替と言ったのはそういうことでございます。代替する設備において警報が発生をしたということあれば、そちらの場所に警備員が出向いて、そのあたり周辺の確認を行った上で人の侵入の形跡はなかったということを確認したということでございます。

○議長（塚野芳美君） 13番、渡辺三男君。

○13番（渡辺三男君） 電力の敷地内は、2重、3重の防護になっているのはわかっているのです。このカメラで映らなかったらこっちのほうのカメラから映るとか、あと自動ですぐそっち向いて映すカメラとかいろいろなっているのはわかるのです。それであつたって、その場所の一番最初のシステムが機能しないとほか動かないのです。それなのに一番最初の機能を切っておいて何が動くのですかと私は思うのです。私の言っていることが間違いか正しいかだけ教えてください。

○議長（塚野芳美君） 大越さん。

○福島第二原子力発電所広報部リスクコミュニケーター（大越吉弥君） 切ったのは、確かに侵入検知器の一つ。

○13番（渡辺三男君） 俺の言ったことが正しいか間違っているかだけ言ってください。

○福島第二原子力発電所広報部リスクコミュニケーター（大越吉弥君） ほかの侵入検知をする設備もございますので、そちらによって検知可能というふうに判断をして切ったということでございます

○議長（塚野芳美君） そのほかございませんか。

1 番、渡辺英博君。

○1 番（渡辺英博君） まず、東京電力さん全世界的に核物質を扱う場合は非常に厳しい規則なり何なりでやらなくてはいけないということは十分承知だと思のですが、その中で日本においてもここに書いてありますように規制されているわけです。そういった中で例えば今のお話を聞いておりますと、検知器を切って、それでよその部分でカバーしておるから大丈夫だと判断したようでございますが、その状態において規制庁はこれはだめだよと判断したわけです。だから、もし切る場合は2重、3重にこういう部分で監視しておりますので、小動物なり何なりの反応があつて困っていますので、これで十分かどうかまず規制庁にお伺いを立てて、許可を得てから行うべきだと考えますけれども、まずその辺が1点。

あと、もう一つは今までいろんな議員から出ましたけれども、10月7日ここでこういうことが発覚したわけでございますが、その件につきまして管理責任者が隠蔽して上層部に伝えなくても済むような体制になっていたということですよね、結果的には。ですから、この辺も含めて非常に問題が大きいと思うのです。ですから、まず私が言いたいのはあなたたちは双葉郡に行って、それでまず全員が避難している状況を見てどういう原因でこういう状態になったかと、そういうことを強く認識した上で核物質の管理とかそういうことに当たればこういうことは絶対起きないと思うのです。基本的な緊張感がないということです。ですから、今になってこの原因は防護管理者及び担当者の法令の理解及び核セキュリティに対する意識の不足、それでこれを改善しますよということでございますが、今の時点になってこんな話はないですよ、基本的に。その辺ちょっとご答弁をお伺いします。

○議長（塚野芳美君） 原子さん。

○福島第二原子力発電所副所長（原子昭洋君） 今の議員のご指摘ももっともなところでございます。まず、そういう運用をするのであれば事前に許可なり、運用の手順を定めて監視業務に不備がないというような手続をとればよかったのではないかとこのことに関しては、まさにそのご指摘のとおりでございます。もしそのとき代替機能がきちんときいて、監視業務が検知器を1つ切ったとしても補完できるのであれば、そういったことを手順化するなりマニュアル化するなりということで申請して許可をもらうとか、そういう運用を定めるとかいうことがそのときに至れば、このようなことがなかったのではないかと考えていますけれども、まさにそこに原因の一つで核セキュリティの意識の不足ですとか、法令遵守の意識の不足だということが、結果としてこのような事態を招いたというふうに考えてございますし、このことが上位職まで上がっていなかったということが、また大きな一つの問題で、これはまた組織的な問題ということになろうかと思えます。これまで原子力不祥事以降、現職

の改革、それから社内のコミュニケーションの活発化等々、いろんな改革を進めてきてまいりましたがけれども、事この事案に至ってはそのようなことがきちんと浸透できなかったということは、大いに反省をしなければいけません。そして、この事案をこの再発防止策で進めるということと同時に、組織としてこういったことが起こらないようなさらなる現職改革ということを皆で肝に銘じて進めなければいけないということを再認識したところでございます。

それから、隠蔽体質というところでございますけれども、核物質防護管理責任者においては先ほど来から申し上げているとおりそういった知識の不足、それから上位職への報告の義務の必要性、それから物理的な代替機能の確保ということが複合的に相まってそのようなことが欠如したということが今回の大きな原因の一つでもございますので、その点についてはこの再発防止策をきっちりと履行する、確実に進めていくということで今後のこのようなことは二度と起きないようにしていかなければいけないということでございます。

以上です。

○議長（塚野芳美君） 1 番、渡辺英博君。

○1 番（渡辺英博君） きょうあなたからもらった資料の一番下のほう、核物質防護に関する情報は云々から妨害破壊行為を企てようとする者に知られることは、ずっと来まして公共の安全に害するおそれがありますと書いてあります。あなたたちこれわかっているわけですね、こう書いておくということは。でも、私から言わせれば全然わかっていないと言わざるを得ないです。ですから、あくまで現場の担当者がどうだこうだ隠蔽したとかいうことではないと思うのです。東電の体質というか、組織上も含めて抜本的に改革しなければ、これは直らないと思っているのです。それで前の13番議員からも出ましたが、今までいろんなミスなり何なりのとき、東電のほうで説明に来ましたが、これはあなたたちが思っているよりもはるかに重要な事象なのです。ですから、現場の副所長が来て、二、三人で来て、それで説明すれば済むと、そういったことではないです、これは。原子力の防護というのは、日本だけではなくて国家的にも非常に厳しく管理されているものなのです。あなたたちは、一番最後にいろいろと文章に書いてやっていますけれども、全く実感としてわかっていないといえますか、ただ言葉上お話しするだけで、やっぱり管理職も含めて、あと組織上も含めて抜本的にかえる必要があると思うのですけれども、その辺お伺いしたいと思います。

○議長（塚野芳美君） 原子さん。

○福島第二原子力発電所副所長（原子昭洋君） 先ほど来から申し上げたとおり、決してこの事象が小さなもので、かつ今回私どもの陣容でご説明が尽くしたということではないと思いますし、私どもとしても何度も申し上げますけれども、この件につきましては非常に厳粛に受けとめて、二度とこのようなことがないように、そしてまたこれから富岡町の皆様が帰町を判断するに当たって、このようなことが起こりますと非常にご迷惑がかかるということも十分に承知をしてございます。きょうの私どもの説明で不足ということは私先ほど申し上げましたとおり会社に戻りまして、このようなご意見

があったと、このようなご要望があったということはお伝えさせていただくということにさせていただきます。

○議長（塚野芳美君） 1 番、渡辺英博君。端的にちょっと話をまとめてやってください。

○1 番（渡辺英博君） まず、富岡町が帰町するに当たって非常にまずいということはそのとおりでございますが、出発点に戻りまして避難する原因をつくったのもあなたたちなのですから、その辺を決して忘れないように。避難させておいて帰る時点において非常に不安を与えていたと、その辺もここでははいとうなずいていますけれども、十分意識してください。

あと、もう一つは例えば 1 F なり 2 F で起こっている事象を原特でお話ししてもらっているけれども、その中に出てきている軽微なことと、この原子力規制庁の規則を守らなかったということは、全然次元が違いますから。だから、副所長さんと二、三人で説明して、それでごめんなさいで済む問題ではございませんので、基本的にまずこの件に関してはもっと幹部のほうで組織の体制も抜本的にかえまして、責任体制もかえまして、それでもし謝罪するのであれば、もっと上部の方に謝罪をお願いしたいと思います。いかがですか。

○議長（塚野芳美君） 原子さん。

○福島第二原子力発電所副所長（原子昭洋君） 今いただきましたご意見につきましては、今私の一存ではちょっとわかりかねます。先ほどから申し上げていますとおりご意見、ご要望があったということは確実にしてお伝えして皆様のご期待に沿えるかどうか調整をさせていただきたいと思います。

○議長（塚野芳美君） そのほかございませんか。

町長。

○町長（宮本皓一君） 今ほど議員の皆さんから強い口調でさまざまな東京電力の今回の事象につきましてこれらを改善すべく意見が出たわけですが、町からも一言お話をさせていただきたいと思います。

本町は、29 年 4 月の帰還を目指しております。その中でふるさとの復興再生に職員一丸となって取り組んでおります。今回東京電力のこのような事象は、帰町を目指す町民の意欲をそぐもので、極めて遺憾であります。本件の再発防止はもとより、会社組織の徹底した体質改善を強く求めます。

以上です。

○議長（塚野芳美君） 原子さん、答弁できますか。いかがいたしますか。

原子さん。

○福島第二原子力発電所副所長（原子昭洋君） 本日は、長時間にわたり私どもの説明、それからご質問いただきました。それから、今回の説明の態勢ですとか、幹部のかかわり等についても厳しいご意見を頂戴しましたことは、私も肝に銘じて社に持ち帰って検討をさせていただきます。

それから、町長のほうからも町として現在の帰町の判断に当たって大変なゆゆしき事態であるということは、私どもも承知をしてございますけれども、改めてこのような話があったということは社に

持ち帰りまして共有をさせていただき、二度とこのようなことがないようなことを目指して取り組んでまいりたいと思いますので、引き続きどうぞ指導をよろしくお願いしたいと思います。

○議長（塚野芳美君） これをもちまして質疑を終了いたします。

以上をもちまして付議事件１、福島第二原子力発電所における「核物質防護規定遵守義務違反」についての件を終わります。

暫時休議いたします。東京電力さんにはご退席いただきます。

休 議 （午後 ３時 ３１分）

再 開 （午後 ３時 ３２分）

○議長（塚野芳美君） 再開いたします。

その他に入ります。議員各位からその他ございますか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（塚野芳美君） 執行部のほうでその他でございますか。

〔「ありません」と言う人あり〕

○議長（塚野芳美君） それでは、ないようですので、以上をもちまして富岡町議会全員協議会を終了いたします。

お疲れさまでした。

閉 会 （午後 ３時 ３３分）